

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	○	○
		一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・景気はすぐに良くなるとは思えないが、以前より落ち着いている感じがし、必要な物なら少し高くても買うため、やや良くなる。
		一般小売店〔文房具〕 （経営者）	・年賀状印刷の注文が減っているだけで全体的な売上はそれほど落ちていないため、年賀状が終われば例年どおりの売上ができる。
		コンビニ（商品開発担当）	・前年割れすると予測していた時期となっても前年超えを維持しているため、やや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・年末から年明けに向かって客の動きが良くなっていく。
		乗用車販売店（販売担当）	・ここ2、3か月は受注も順調に推移していたが、今月はやや伸び悩んでいる。しかし、新型車の発表が間近でありそれが出るまで皆慎重に検討しているため、発表後には受注も需要も多く、市場も活発になる。
		乗用車販売店（渉外担当）	・各社新型車の投入、エコカー減税延長の動き、生産量の回復等、今後は自助努力も含めて期待したい。ハイブリッド低燃費車を中心に偏りはあると思うが、総販売量は伸びていく。
		その他専門店〔雑貨〕 （従業員）	・賞与についても少し増額が見受けられ、当社の売上の中でも単価がやや上がっている傾向がある。
		旅行代理店（従業員）	・業務性需要が回復してきているため、やや良くなる。
		旅行代理店（営業担当）	・正月商品の申込状況が昨年よりも順調であるため、やや良くなる。
		タクシー運転手	・年末年始はお酒を飲む機会が多くなるので、当然のように利用客も多くなる。遠方まで帰る客も増え、年間を通して一番忙しい時期を迎える。
		タクシー運転手	・世界的に強く欧州の信用不安が出ており何とも言えないが、これから東北の補正予算が動き出せば、多少は上向いてくる。
		タクシー運転手	・年末から来春にかけて東北の復興に変化が見られそうであり、景気は多少上向きに転じる。特に福島第一原子力発電所の事故後の朗報があれば、やや良くなる。
		ゴルフ練習場（従業員）	・利用金額等には伸びがないと感じられるが、小幅ではあっても来客数はずっと伸びているため、先行きはやや良くなる。
その他レジャー施設 （経営企画担当）	・来客数は堅調に推移しており、今後低下する要因は見当たらない。宿泊施設の利用者について、海外客の回復が目に見えて表れてきており、今後の予約も堅調に推移しているため、やや良くなる。		
その他サービス〔福祉 輸送〕（経営者）	・自動車は立ち遅れていた生産が順調に戻って、現在受注残となっている注文が徐々に販売、登録となり、実績が上がり始める。また、年末に発表される様々な新車効果を含めると、景気は若干上向きになる。		
変わらない		商店街（代表者）	・めばしい好転材料が見当たらないが、景気が良くないと世間で言っている割には大幅に落ち込むこともないため、平行飛行を続ける。
		商店街（代表者）	・最近、金融機関の貸出顧客に対するチェックがかなり厳しくなっている。優良の借入をしている所は全く問題がないが、若干問題があるような所についてはかなり厳しいチェックが入り、問題がありそうな所については非常にシビアな対応が、知っている所でもあった。今年から来年にかけて、金融機関の締め付けが大変怖い。
		一般小売店〔和菓子〕 （経営者）	・東日本大震災の影響でギフトの動きは鈍いままである。年末年始の帰省土産や年賀の贈答品の販売がまだ不透明で不安要素があるため、さほど良いとは思えない。
		一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・暮れの売り出しやプレミアム付き商品券などもあるが、12月はともかく1、2月は工事などが中心になるため、変わらない。
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・量販店では無休、しかも低価格で販売しているため、普段と変わりが無い。買い置きする客も全くいない。
		一般小売店〔印章〕 （経営者）	・理由が分かれば改善はするが、この落ち込んでいる経済はどのように立て直せばいいのか。当業界だけでなく全般的に冷え込んでいると感じ、厳しい。
		一般小売店〔医薬品〕 （経営者）	・しばらくは今の様な状態が続く。
		百貨店（売場主任）	・株安、円高が当面続きそうであるため、大きな買物、特にぜいたく品とされる宝飾などはあまり期待できない。

百貨店（総務担当）	・当店や近隣店の売上を見ていくと、前年比100%前後で推移する状況が続く。
百貨店（総務担当）	・引き続き景気が上向き要因は見当たらないため、購買行動も慎重にならざるを得ない状況では、先行き改善の期待は難しい。
百貨店（総務担当）	・この半年くらいから今年の暮れまでの動きを見て、景気の不透明感、欧州の信用不安を含めた全体としての経済の動き等をかんがみると、客の動きは決して良くなることは見込めない。
百貨店（総務担当）	・株価など先行き不透明な現状のなか、良くなる要素が見当たらない。ただし、おせち、クリスマスなどのオケージョンの商品は悪くないので、それをヒントに商売を進めていくことも考えなければならない。
百貨店（営業担当）	・例年より気温が高いため、婦人、紳士コートを始め防寒衣料の動きが鈍い。ただし、欧州の信用不安、米国の財政不安のなかでの円高、株安の傾向が続きながらも、宝飾、時計、美術品は堅調である。
百貨店（営業担当）	・ボーナスシーズンを前に下見する客の数も少なく、お歳暮も前年を割っている状況である。
百貨店（営業担当）	・冬物需要のピークが遅れると予想しており、クリアランスにより単価は下がるものの、気温の低下により、販売量は増える。また例年と比べ円高ではあるが、海外旅行を控え近場で家族と過ごす機会がより増えると思うため、販売機会は十分にあると言える。ただし、世界経済全体が不安定ななか、財布のひもは更に固くなることも考えられるため、いかに購買意欲をかき立てる情報発信ができるかで今後の動向は変化する。
百貨店（営業担当）	・続く円高、株価も本年最低と景気回復の予兆が感じられず、依然消費者心理は冷え込んだままである。
百貨店（販売促進担当）	・気候が寒くなりコートやアウターなど高単価アイテムの動向が伸長すると考えられるが、12月にはセール待ちの顧客心理が働き、1、2月についても春物は様子見で、セール商材は品不足の状態が想定される。
百貨店（販売管理担当）	・欧州の信用不安や株価の下落から外商顧客の購買意欲に懸念は見られるものの、おせちの受注が好調に推移するなど家族や友人との絆に関連する商品や、クールビズの終了でスーツ需要が回復するなど、新規需要も喚起されていることから、全体的にはプラスマイナスゼロである。
百貨店（営業企画担当）	・天候、気候等にも左右されるが、婦人用品に関してはこのまま好調を維持する。
スーパー（店長）	・暖冬傾向がどこまで続くか分からず、先行きが不透明な部分がある。年金問題や円高、株安等でやはり将来に対して客は不安を感じている。単価の安い特売品以外の買上数量や単価の高い高額品の動きが悪いということもあり、現状とあまり変わらない。
スーパー（店長）	・当店の来客はかなり年配客が多くいるため、年金問題の報道等で、買い控えや必要な物以外は買わないという状況が続く。
スーパー（店長）	・ギフト需要やクリスマス、年末年始があるため、ある程度の消費は見込めるが、前年を上回るだけの勢いは感じられず、厳しい状況は続く。
スーパー（総務担当）	・可処分所得が非常に下がっているように感じられ、低価格の物を必要最低限しか買わない状況が多く見受けられる。まだまだ東日本大震災以降の沈滞したムードが払しょくされていないことと合わせて、円高又は周りの景気感により、客の財布のひもは固い。
スーパー（営業担当）	・欧州の信用不安が世界的な経済に与える影響は非常に強く、また円高、株安と非常に不景気感があり、客の行動も冷えたものになっている。
スーパー（仕入担当）	・売上の鈍化により、価格訴求の傾向が各社共に強くなっているため、売上が伸び悩む可能性が高い。
スーパー（仕入担当）	・年末を控え必要な物、価格を下げた商品しか売れていないため、このまま通常商品と、暮れ、正月といった行事用の最低限の商品しか売れていかない。
コンビニ（経営者）	・客の買物動向に大きな変化が出なくなっており、当分は今の状況が継続する。

コンビニ（経営者）	・客の様子は、将来への不安で必要な物以外はなるべく買わない、同じ物があったら控える、今日は幾らに抑えるといった節約意識が非常に大きい。いろいろな危機が迫っているが、新年になってそれらが解決されていくという見通しさえ明るくなれば、もっと客はお金を使ってくれるのではないかと思う。しかし今のところ不透明なので、3か月先も今と変わらない。
衣料品専門店（経営者）	・気温に影響される業種だけに、このまま暖冬が続くことも考慮して対策を立てなければならない。
衣料品専門店（経営者）	・温暖化の影響はかなり大きく、また増税、年金問題など収入の減る話ばかり聞こえるため、消費者心理も冷えて切っている。しばらく景気が良くなる環境ではない。
衣料品専門店（経営者）	・天気に左右されるところが大きい、やはりまだまだ客数が伸びていく状況にない。何かを打ち出さない限り、前年を超えるのは無理である。
衣料品専門店（店長）	・年末年始にかけては現在の消費状況が続く。東日本大震災から1年が経過するころになると、電力状況が改善され、メーカー工場などの生産遅れが出なければ、現状のまま推移しそうである。
衣料品専門店（店長）	・景況感が変わらない限り、ここから先上向きになるとはなかなか言い切れない。
家電量販店（統括）	・昨年の特需による影響は終息に向かっているが、大きく業績を拡大させることは厳しい。
家電量販店（副店長）	・昨年はエコポイント対象商品の継続需要、地上デジタル放送に伴うテレビ需要の増大があったが、今年は特別な施策が無いので、厳しい状況になる。
乗用車販売店（経営者）	・整備は順調に入っている。販売は前月からあまり芳しくないが、来年1月以降からは徐々に上向きになる。
乗用車販売店（販売担当）	・欧州の信用不安、円高等のなかで、将来像がよく見えないため、消費者は買い控えている。東日本大震災での一時的な需要は増えたが、その後落ち着いている。予想よりも増えてはならず、売上は上がったが利益は下がっているということから、景気はまだ悪くなっており、今後数か月間は変わらない状態が続く。
乗用車販売店（営業担当）	・タイの洪水の影響により納期が大幅に遅れ、売上のめどが立たない。
乗用車販売店（総務担当）	・相変わらず部品調達が遅れている。自動車部品に加え、カーナビ、オーディオ関係に遅れが出ている。国内での生産分は何とか平常に戻りつつあるも、海外での生産分に大きな遅れが生じており、国内販売に大きな影響を与えている。時期が来れば平常時に戻らと思うが、今後の不安が暗くのしかかっている。
住関連専門店（店長）	・政治、金利の動向から、変わらない。
その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・常に販売促進策を講じていかないと成績を上げるのは難しい状況は変わらない。
その他小売 [ゲーム]（開発戦略担当）	・大型タイトルが継続的に販売されるほか、年末商戦には新しいハードが投入され、盛り上がりの継続が期待できる。
その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	・欧州の信用不安に出口が見えず、日本経済の先行きも厳しい。先行き不透明感が払しょくされておらず、個人消費も厳しい状況が続く。
高級レストラン（店長）	・予約状況の推移から、変わらない。
一般レストラン（経営者）	・10月は前年比で売上99.8%、客数102%となって底かと思ったが、11月はこの分では96、97%となりそうであり、まだまだ底が見えない状況が続く。
一般レストラン（経営者）	・年末を控え同窓会、地元の忘年会などの問い合わせは増えているが、企業、官庁の宴会の自粛は相変わらずであり、変わらない。
一般レストラン（店長）	・ボーナス、給料が下がるという状況が続いているため、飲食までは回ってこないということが最大の原因であり、2、3か月先もその状況は変わらない。
一般レストラン（スタッフ）	・前年より落ちずに維持しているが、赤字にはなっていないものの、支払が上がってきているため利益は得られていない。それでも当店は他店に比べて良いほうである。繁盛店でも非常に頑張っている前年維持であり、あまりにも周りが悪い。このまま景気が上がるような傾向はない。
都市型ホテル（支配人）	・先々の販売量の動きは変わらない。
都市型ホテル（スタッフ）	・料金を落としていることもあるが、結婚式の予約件数が増えてきており、結構上がってきている。ただし、今より良くなるとは感じられないため、変わらない。

都市型ホテル（スタッフ）	・ T P P 交渉参加への協議や円高等、非常に不確定要素が多いため、変わらない。
都市型ホテル（スタッフ）	・ 売上に関しては徐々に戻ってきているが、先行きが不透明で良くも悪くもない状態が続いている。今後、何か大きく変わるような動きは、現在はない。
旅行代理店（経営者）	・ 旅行をするためのリフレッシュ用の費用は皆持っているようだが、なかなか財布の口は固いようである。これから12月、正月と出費が多くなってくるが、今のところ当社に反響するほどのことはないようであり、期待している。
タクシー運転手	・ ますます客の財布のひもが固くなってきている。やはりこの先の不安が大きいうことで、不安要素を言う客が日増しに多くなってきている。
タクシー（団体役員）	・ 本来ならば新年会、賀詞交換会等で人が動く時期なので業界が一番の繁忙期になるはずだが、先行き不透明である。一過性の忙しさはあると思うが、厳しい状況は変わらない。
通信会社（経営者）	・ アナログ放送終了によるテレビの契約の落ち込みはしばらく続く。
通信会社（経営者）	・ 欧州の信用不安があるものの、ボーナスが出て買物もそれなりに増えそうである。
通信会社（局長）	・ 大きく落ち込むことはないが、T P P 交渉参加への協議や年金問題もあり、消費が伸びる要素に欠ける。
通信会社（営業担当）	・ テレビ離れもあり、多チャンネルサービスの契約数はしばらく低調な状況が続く。
通信会社（局長）	・ 年末年始の季節要因があっても企業活動全般が回復への兆しを見せない限り、改善する見込みはない。
通信会社（総務担当）	・ 身の回りの景気ということでは、不景気の原因が定かにならない限り、回復は難しい。好転するとすれば、春の引越シーズンになる。
ゴルフ場（支配人）	・ 当ゴルフ場では近年、会員の平均年齢が高く数が減りつつあるため将来に不安を残しているが、なかなか補充できない。
パチンコ店（経営者）	・ 今は時期的なことでは少しは良くなってきたが、以前と比べるとパチンコ離れという感じを若干受ける。また、景気の動向、消費税のことなどもあるのか、客の財布のひもが固くなっており、朝もだが特に夕方からの客が減っている。この先も急に好転することはない。
その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	・ 政治、円高等、外的要因の改善が見えておらず、消費動向に変化は起こらない。
設計事務所（所長）	・ 現状では、良くなる要素も悪くなる要素も見付からない。
設計事務所（所長）	・ 増税等の話が出ているなか、なかなか具体的なものは今年度内は難しい。来年度以降に期待したい。
設計事務所（職員）	・ 円高、デフレ、増税等の様々なプラス及びマイナス要因があるが、全体に好況となる感じはしない。
住宅販売会社（従業員）	・ 例年だと年度末に向かって住宅、不動産が動くが、景気の良くなりそうな要素が見当たらないため、低迷したまま変わらない。住宅購入を考える客の絶対数が少なくなっている。景気の先行きが見えず、今は様子を見たり、買換えを諦める人も多いようである。
住宅販売会社（従業員）	・ 今の状態と大きく変わらない。特別な要素もなく、金融情勢によっては厳しくなるような気もするが、契約数は横ばいで推移する。
住宅販売会社（従業員）	・ 客の動きはそれほど変わらない。
住宅販売会社（従業員）	・ 3か月先の年明けは、復興支援・住宅エコポイントが始まったものの、それ以上の好材料は見当たらない。厳しさは相変わらずである。
住宅販売会社（従業員）	・ 欧州の信用不安の影響で、先行きが不透明ななかで住宅購入について慎重になっている状況は変わらない。
やや悪くなる	商店街（代表者）
商店街（代表者）	・ 景気が急速に回復する兆しを感じられない。 ・ 衣料品店などは寒くならない肌着が多少動いているということだが、今後は非常に寒くなっていき、高齢化社会になってくるということもある。我々の所のような専門店に来る客は高齢者が多いため、今後は非常に厳しくなっていく。
一般小売店 [文具] (販売企画担当)	・ 本来であれば補正予算が下りたので役所の案件などが今後見込めるかと思っていたが、タイの洪水の影響を受けている。例えばコピー機、ハードディスク関係を積んだ家電やプロジェクターなど、また文房具の一部でも、既に生産の見込みが立たないという物がある。3月までの間に売りたいくても売れない状態が出そうな雰囲気があり、それが一番怖い要因となって少し落ち込む。

一般小売店〔茶〕（営業担当）	・放射性物質の懸念が消えない限り、お茶などの薬物の購入は低下し、缶ジュース、ペットボトル類に軍配が上がる。
百貨店（営業企画担当）	・9月はほぼ前年並みに推移し、10月は前年を下回る売上であった。下期に入って消費マインドは厳しくなっている様子が見え始めるため、先行きも油断はできない。
百貨店（店長）	・初夏に比べると若干の買い控えが見られる。株価の低迷などの要因も高価格商材では打撃となるため、相対的に苦戦する。
スーパー（経営者）	・今までも決して良くないが、11月になってから非常に消費が冷え込み、数字が良くない。この傾向は12～2月と続く感じがしており、今までにない状況で、非常に先行き不安がある。何とか売上を上げるため、いろいろな手を打っていかなくてはならない。
コンビニ（経営者）	・世界的な経済不安や国内政治の不安定、TPP交渉参加への協議や消費税問題等と不安要素が多く、国民一般も不安要素は高いと思うため、景気自体は下降気味になる。
コンビニ（経営者）	・駅前の複合商業施設がオープンしたため、客数が約2割減である。経験上、景気が良い時は少しずつ戻ってくるのだが、やはりそれがないため、今後も横ばいである。
コンビニ（経営者）	・今月の来客数や周囲の動向から、景気は悪くなっていく。
コンビニ（エリア担当）	・欧州の信用不安に伴う景況感の冷え込みで、やや悪くなる。
衣料品専門店（経営者）	・現実として人通りも少なくなったように感じている。プレミアム付き商品券を発行したが、今のところまだその効果が出ていない。良い材料が無く、全く良くなる要因が見当たらない。
衣料品専門店（営業担当）	・増税など、小売業には本当に厳しい材料しかなく、消費者の財布のひもをきつく締め直す政策ばかりで、これから大変厳しい状況になる。
乗用車販売店（経営者）	・エコカー減税の終了による買い控えが出てくるため、販売台数の減少は避けられない。
乗用車販売店（店長）	・東日本大震災からやっと立ち直った工場も、タイの洪水によって部品供給がなされていない。また、円高による景気の悪さも、ストレスがたまる一方である。
住関連専門店（統括）	・現在の景気の低迷や東日本大震災の影響で買い控え等がなかなか収まらず、まだ何か月かは消費の低迷が続く。
高級レストラン（支配人）	・まだそれほど数字には表れていないが、欧州の信用不安やタイの洪水など良い材料が見当たらず、景気に確実に影響してくる。
一般レストラン（経営者）	・飲食店、レストランは1、2月は大分暇であるため、かなり下がり、景気は悪くなる。
一般レストラン（経営者）	・3か月後も景気低迷で、デフレが続いている。決して望むような展開はない。
一般レストラン（経営者）	・TPP交渉参加への協議や政治不安、あるいは消費税の増税のような話が出てくると、やはり心理的には消費を控えるような動きになっていく。
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊客はネット中心の集客になり、間際まで安い料金が出るのを待っている様子である。来年の春先にかけて学会、地区大会等の予約が取り込めていない状況であり、苦戦が予想される。レストランは土日祝日の個人利用を中心に記念日利用や同窓会等の予約が取り込めているため、このままで推移して欲しい。宴会は婚礼客の取込が進んでおらず様々な対策を打っているが、最終的には周辺施設との価格競争になり、厳しい状況である。一般法人宴会は、新規開催と中止があり、集客はほぼ前年並みである。3部門で見ると、レストランと宿泊部門のこれからの集客状況によるが、苦戦が予想される。
都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼規模の縮小が目立つため、売上も伸び悩みそうである。
通信会社（営業担当）	・大手競合他社の攻勢もあり、苦しい販売状況が続く。
通信会社（営業担当）	・景気に対する不透明感が重くのしかかっており、購買意欲に悪影響を与え、新規契約数の増加は期待できない。
通信会社（営業担当）	・多くの顧客は収入が減少しているとの声を聞くため、先行きの不安が解消するにはもう少し時間がかかる。
通信会社（管理担当）	・消費税増税論議も活発になることが予想され、サービス、娯楽への支出は差し控えられる。
その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・12月は忘年会、冬休み等通常であれば需要が多く見込まれる月だが、現時点では予約数が前年を下回っている。欧州の信用不安、株安に引つ張られ、予断を許さない状況が続く。
その他レジャー施設〔スポーツ施設〕（支配人）	・円高、年金問題など景気後退要素があり、良くなると思えない。

	美容室（経営者）	・どこで買物をしているのか分からないくらいに商店街の人通りが少なく、買上が激減しているため、やや悪くなる。
	その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・年末や正月用にお金を使ってしまうため、やや悪くなる。
	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・東日本大震災以降、電車に乗って通ってくる生徒が少なくなり、近くの塾に行ってしまう傾向が続いている。特に小学生などは電車を止めて近くの塾に移動しており、人数が減っているため、先行きが明るいとは思えない。
	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・行き先が見えない景気動向による購買意欲の低下がある。消費者の厳しい選択、とりあえず必要な物以外は購入しない買え控えがある。不安、不信などの失望感が消費者の守りの意識を促進させている。
	住宅販売会社（従業員）	・東日本大震災の被災地へ施工業者、特に建物解体業者が大量にシフトしているようで、すべての工種において施工単価が値上がりしており、コスト上昇が見込まれる。
	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・円高、欧州の信用不安、タイの洪水といろいろとあり、企業としても投資を渋るような状況になってくる。そういったなかで、一般の消費マインドもなかなか伸びにくい状況になる。
悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・福島第一原子力発電所の事故で、客からどこのお茶か、放射線は大丈夫か、検査済みか、他地区のお茶は置かないかと毎日聞かれている。風評被害もあり、売上は激減しており、先行きも悪くなる。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	・商品の単価もどんどん下がっている状態で、量販店は目茶苦茶な数字を広告で出しているため、どうしても比べてしまうことが多々ある。今後、客の設備投資の話もなく、どこに行っても本当に良い話を聞かないため、もっと泥沼に入っていく。
	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・小売業、サービス業の給料が上がらないと、勤めている従業員の消費意欲は更に悪化する。
	百貨店（営業担当）	・欧州の信用不安や大規模災害による世界景気の減速、円相場の高止まりによる企業収益の減少など、先行きの不透明感は強まっている。
	百貨店（副店長）	・欧州の信用不安、円高、株安、増税予測に伴う消費マインド低下で、悪くなる。
	スーパー（ネット宅配担当）	・今後、増税やTPP交渉参加への協議等の政治、経済不安から、さらにより一層儉約志向は強まる。年末商戦は絆志向から家族向けは好調と予想されるが、楽観はできない。1～2月は更に厳しくなる。
	コンビニ（商品開発担当）	・円高や欧州の信用不安などの国内外の情勢、TPP交渉参加への協議や復興遅れなどに代表される政治の停滞等、暗い材料ばかりで良くなる見通しが全く立たない。
	衣料品専門店（経営者）	・東日本大震災以降、買物によりシビアになってきている。特に必要性や価格に敏感で、クリスマス商戦、その後の冬物セールは苦戦が予想される。
	家電量販店（営業統括）	・昨年はテレビがさばききれないほどの売行きだったが、今年は反転して全く売れない。年賀状の時期に入るが、プリンタの供給数も厳しく買換えも進まず、さらに暖冬で暖房も伸びない状況で、年末の盛り上がりも期待できない。欧米の状況も不透明ななか、消費はしばむ一方である。
	旅行代理店（従業員）	・秋の行楽シーズンの反動を受け、国内団体旅行の予約件数が極端に減っている。主要路線である北海道、沖縄線の予約率が非常に悪く、前年の70%にとどまっている。
	旅行代理店（支店長）	・スカイツリーはいよいよ開業年を迎えるのでその営業には期待ができるものの、今月は秋で本当の最盛期となっているため、冬で団体も動かなくなり個人旅行もなくなる2、3か月先は、当業界の景気としては良くない。
	観光名所（職員）	・11月はトップシーズンであり、3か月後は一番の閑散月となるので、かなり悪くなる。
	ゴルフ場（従業員）	・良くなる要素、希望が見えない。
	設計事務所（所長）	・東日本大震災後、仕事量が減っている。大企業はどんどん海外進出ということで、国内での計画、投資等の拡大は一向に見えてこないのが現状である。このようななかでは景気が良くなるというほうがおかしい。
		住宅販売会社（経営者）
企業動向関連	良くなる	—
	やや良くなる	—
	食料品製造業（経営者）	・客に少し余裕が出てきたようで、菓子を自家消費するようになってきている。
	出版・印刷・同関連産業（所長）	・次年度関連がかなり動き出している。控え気味の広告予算も若干上向き傾向に感じるため、やや良くなる。

	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・大手電力会社やその関連会社が得意先である。3月11日以来、事務部門が非常に少なくなっていたが、ようやくここへきて注文が若干増えてきており、やや上向きになってきている。関連会社も同じように注文が以前に比べて少し多くなってきている傾向なので、これからは法人関係が少し良くなってくる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・春先までの受注の動きは、受注量が月毎に多少増えていく数字になっている。今後、現実動いていくかどうかである。
	輸送業（経営者）	・来月から1社新しい荷主が増え、独占でやらせてもらうということになったため、何とか良くなる。
	広告代理店（営業担当）	・ようやく前年度を超えてくる取引先もあつたりと、来年度の話が前年に比べて活発に出てくる所も多くなってきている。
	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・来月に入り仕事が増えていくため、やや良くなる。
	その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・今月の受注数は若干の減少にとどまっている。今後、年末商戦、年度末に向けて若干上向きになると思うため、このまま変わらず若干の好調が続く。
変わらない	食料品製造業（経営者）	・いろいろなことが落ち着いているように感じるため、変わらない。
	繊維工業（従業員）	・繊維製品は、外国人観光客がメイドインジャパンを買って帰るようだが、国内では特定の消費者にしか売れない状況は変わらない。
	出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・年賀状や簡単なチラシなど、自分で簡単に作成できるツールなどが普及しているため、年々こういった印刷の注文が減っている。
	プラスチック製品製造業（経営者）	・災害や欧州の信用不安、円高等が原因の景気動向は、3か月くらいではそう大きく変わらない。
	プラスチック製品製造業（経営者）	・既存の生産、受注量に大きな変化はなさそうだが、各顧客とも円高の影響をにらみながら海外生産の対応を取り始めるなど新規の企画も全く無い状態で、先行きは不安定な状況が続くそうである。
	金属製品製造業（経営者）	・受注量は増えているが価格は厳しく、売上は伸びないこの状況が続くそうである。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラック業界は東日本大震災で減産したためそれを取り返すというような話があったが、それも2か月くらいで、今度はタイの洪水、円高となっている。年末、あるいは3月までなど希望を持つが、すぐにまたしぼんでしまい、また材料が動かなくなるという状態が続く。
	その他製造業〔靴〕（経営者）	・一時期非常に落ち込んだ時があったが、それから得意先関係もいろいろと努力をし、自分たちのあり方をだんだん見つけて、それが定着してきている。良くもなく悪くもなくということが定着している状況であり、変わらない。
	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・年末の盛り上がり感に欠ける状況であり、良くなる、悪くなるポイントがよく分からなくなっており、来年の見通しがしづらい。
	建設業（営業担当）	・東日本大震災後、鉄鋼関連の資材価格が徐々に上がってきている。また解体後のスクラップの買取価格は安値になってきて、建替えの顧客への影響は大きくなっている状況は変わらない。
	輸送業（所長）	・来年の荷動きとして良くなって欲しいとの期待はあるが、なかなか良い情報を聞かない。会社全体でも新規の顧客が取れていないため、厳しい。
	金融業（支店長）	・年明けの年度末近くになるため、多少は上がるのではないかと思うが、それほど大きく良い材料はないので例年程度であり、特に変わらない。
	金融業（従業員）	・業況は低迷が続いている。卸、小売業においては、年末に向けて売上面で期待する部分もあるようだが、消費も慎重になっており、厳しい状況は依然として変わらない。
	金融業（渉外・預金担当）	・為替や世界経済全般の状況より、回復の進行は鈍い。
	金融業（役員）	・消費マインドが低下していることに加え、最近の円高や信用不安から、何かに新規投資しようとする気持ちにならないようである。業況の悪い企業は、中小企業金融円滑化法終了時の混乱を既に危惧している。
	不動産業（総務担当）	・空室率の改善傾向が続くという見通しはあるが、賃料設定をかなり低くしないと新規入居を見送られる状況にあることは間違いないため、今後の景気が良くなるという実感が得られるのは相当先になる。
	広告代理店（経営者）	・現時点では3か月後は前年並みを維持できそうであるため、変わらない。

	経営コンサルタント	・タイの洪水の影響、米国経済の立ち直りの遅れなどが大きく影響する可能性があり、予断を許さない。	
	社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。	
	経営コンサルタント	・タイの洪水、欧州の信用不安など外的な要因による景況不安がある。	
	経営コンサルタント	・県内の信用金庫では、利払いが滞る延滞債務など、不良債権比率が高まってきている。債務返済猶予を義務付けた中小企業金融円滑化法の期限は1年延期されて平成25年3月となったが、こうしたマイナス要素が埋もれたままでは回復に時間がかかる。	
	税理士	・明るい材料が見当たらない。飲食店もリーズナブルな店に集中して高級婦人服も売行きは悪い。	
	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・同業他社との低価格競争がしばらく続きそうである。	
やや悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・通常流れている仕事も先の予定が少なくなったようで、発注数も減っており、年明けからの仕事が本当に心配である。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・春先に毎月5万個流れる案件がアメリカへ移管されるということで困っていたが、11月中旬に移管されるという話がタイの洪水の関係でアメリカの会社はそちらを手伝わなければならないため、移管は1月末までとなり、2か月伸びている。そのため、また2月ごろから売上が落ちる。	
	精密機械器具製造業（経営者）	・不安定要素が多過ぎる。復興需要も、半年たっても依然影響が見られない。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・これから将来、海外生産に切替えるという大手企業の動きで、国内生産が落ちる。	
	建設業（経理担当）	・現在は採算を度外視して仕事量を確保しているが、この先は全く不透明で、採算を度外視してまでも仕事量を確保するのは難しそうである。	
	輸送業（経営者）	・東北地方の復興がまだ軌道に乗っていないため、しばらくの間は現在の状況が続く。	
	輸送業（経営者）	・燃料価格が徐々にだが高くなりつつあるため、状況は悪化する。	
	通信業（広報担当）	・全体の景況感は徐々に厳しくなっており、これ以上の好転は見込み難い。	
	金融業（支店長）	・特に製造業では半導体関係が売上減少となっている。また、円高の影響で海外に親会社が行くことなども想定されているため、今後の売上が見込めない。小売業もやはり売上が落ち込んでいる。倒産件数又は個人でも自己破産が多くなっているため、景気は下火になっていく。	
	金融業（支店長）	・国内は資金余剰の状況に変わらない。少しでも運用利回りが良く、元本保証されている定期預金に資金が流入する傾向にあり、株式相場上昇にはつながらない。	
	不動産業（経営者）	・明るい材料がない。	
	広告代理店（従業員）	・売上の減少が数値で分かるため、やや悪くなる。	
	その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・円高や株安が改善される要素が無く、冬場を迎えますます消費が衰える。また取引先にしても新規で新しい仕事が入るというような状況にはない。	
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・年末年始のスポット的な契約が減っているため、やや悪くなる。	
悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・国内向けの問い合わせが減っている。海外もヨーロッパ向け、中国向けの在庫調整とあって1月以降、生産量は今より減る傾向にある。	
	建設業（経営者）	・景気不安や先行き不透明により設備投資が減少する。	
	輸送業（総務担当）	・荷主の出荷計画が、延び延びになっている。国内出荷も輸出も数字だけが先行して、実際のところは確定していない。年末から年度末にどうなるか不透明である。	
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・株価の下落や円高が今後の不安材料で、設備投資などの足を引っ張りかねない。	
雇用関連	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・1、2月は例年増大が見込まれるが、今から相当数の計画予定を聞いている。それらの注文が全部来れば、かなりのものになる。
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・リーマンショック、東日本大震災の影響も落ち着きを見せ、求人件数も増加しており、このままの傾向であれば今より景気は良くなる。しかし、人材市場の回復というほどではなく、あくまで今より良くなるという感じである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・景気そのものが良くなるとは思えないが、人材市場は上向く。
		職業安定所（職員）	・前年同月比で求人は8%増加し求職者は14%減少しており、景気回復傾向と見られるため、やや良くなる。

	民間職業紹介機関（経営者）	・チリ火山の噴火とタイの洪水で大きな打撃を受けたということもあるが、需要はしっかりしたものがあ。内部体制、関係先との連携状況の改善等もあり、基本的にはこれからベースを固めて更に改善していきたいという気持ちが強いようである。
	民間職業紹介機関（経営者）	・タイの洪水の影響か、技術系求人が増えてきているため、やや良くなる。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・特に良くなる状況が見えないということで、変わらないのではないかと意見が多い。
	人材派遣会社（社員）	・11月は企業の求人活動も活発化し、景気は良好であったと言える。例年12月については、時期的要因から求人が減少し、一時的に減退の見込みである。しかし自動車メーカー、製造業の求人需要が下支えとなる見通しで、1、2月は現在と大きくは変わらない。
	人材派遣会社（支店長）	・期間が短期、単発的な派遣ニーズの見込みはあるが、長期的な派遣依頼は一部の業種であるのみである。
	人材派遣会社（営業担当）	・雇用者数、給与額が向上、改善する様子が見られない。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・ここ数か月間は求人等の状況が変わっていないため、今後もまだ変わらない。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・景気が良くなるのか悪くなるのか判断が付きかねる。本来であれば年末年始に向けた動きで先読みできるが、その判断ができるだけの材料が見当たらない。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・回復はしているが底堅さに欠けるため、変わらない。
	職業安定所（所長）	・新規求人数は前年同月比で増加傾向を維持しているが、新規求職者数、雇用保険受給資格決定件数が微減にとどまっている。加えて円高、欧州の信用不安等の不安要因が多過ぎることから、楽観はできないものの、ここ2、3か月は現在の状況が続く。
	職業安定所（職員）	・東日本大震災後の復興需要が引き続き堅調に推移しているところがプラスであり、欧州の信用不安がマイナスで、双方を勘案すると相殺されるため、今後は変わらない。
	職業安定所（職員）	・中小零細企業からは円高による受注減少等、休業に関する問い合わせがある。雇用調整助成金等の申請件数については横ばいの状況が続いているため、変わらない。
	民間職業紹介機関（職員）	・変わらないから、やや悪くなる兆しもある。求人自体は活発だが、面接の通過率などがわずかに変化する傾向もあり、しばらくは様子見である。
	民間職業紹介機関（職員）	・現状ですぐに悪くなる要素は見えないが、グローバルで影響を受ける欧州の金融不安、円高、タイの洪水等で心理的な変化が見られてくる可能性はある。
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人開拓のなかで、景気の悪化で来年度の見通しが立たないため採用は未定であるという言葉が多い。
やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・年末に向けて短期の採用が若干増えているが、それ以外では横ばいの状況が続いている。年が明ければ終了となり、今よりも就業人数が減る見通しである。
	人材派遣会社（支店長）	・取引企業から経費削減が目的の値下げ要請が数社きており、業績悪化から採用ニーズも更に減る見通しである。
	職業安定所（職員）	・中小零細企業では経済動向を様子見しているため、採用を控えている企業も多いため、やや悪くなる。
	学校〔専修学校〕（就職担当）	・次年度の採用計画確認をしているが、今年度より募集数を伸ばす企業はほぼ見られず、円高の影響で採用計画の方向転換を考えている企業も表れている。
悪くなる	求人情報誌製作会社（広報担当）	・円高とタイの洪水の影響が新卒採用に影響してくるのは来年度なので、特に製造業は更なる大打撃が来そうである。